

CASBEE-広島 2014年版
katayama BLDG 26 新築工事

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル: CASBEE-広島 2014年版
 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質								3.2
Q1 室内環境			0.40					3.3
1 音環境		3.9	0.15	2.8	1.00			3.0
1.1 騒音		3.0	0.50	3.0	0.50			
1.2 遮音		5.0	0.50	2.7	0.50			
1 開口部遮音性能	T-2サッシを使用	5.0	0.99	5.0	0.30			
2 界壁遮音性能	界壁の透過損失50を採用	5.0	0.01	2.0	0.30			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	1.0	0.20			
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	2.0	0.20			
1.3 吸音		1.0	0.00	-	-			
2 温熱環境		3.3	0.35	3.3	1.00			3.3
2.1 室温制御		4.6	0.50	4.6	0.50			
1 室温	冬季、夏季とも室温設定を24°Cが可能	5.0	0.62	5.0	0.63			
2 外皮性能	省エネルギー対策等級3相当を設定する	4.0	0.37	4.0	0.38			
3 ゾーン別制御性		1.0	0.01	-	-			
2.2 湿度制御		2.0	0.20	2.0	0.20			
2.3 空調方式		2.0	0.30	2.0	0.30			
3 光・視環境		3.0	0.25	3.4	1.00			3.3
3.1 昼光利用		4.2	0.30	4.6	0.30			
1 昼光率	最低でも2%以上を確保	5.0	0.60	5.0	0.50			
2 方位別開口	南・東に開口部あり	-	-	5.0	0.30			
3 昼光利用設備		3.0	0.40	3.0	0.20			
3.2 グレア対策		2.0	0.30	3.0	0.30			
1 昼光制御	庇とレースカーテンで昼光を制御する	2.0	1.00	3.0	1.00			
3.3 照度		3.0	0.15	3.0	0.15			
3.4 照明制御		3.0	0.25	3.0	0.25			
4 空気質環境		3.5	0.25	3.7	1.00			3.7
4.1 発生源対策		4.0	0.60	4.0	0.63			
1 化学汚染物質	ほぼ全面にフォスターの建材を使用	4.0	1.00	4.0	1.00			
2 アスベスト対策		-	-	-	-			
4.2 換気		3.0	0.40	3.3	0.38			
1 換気量	建築基準法を満たしている	3.0	0.50	3.0	0.33			
2 自然換気性能	自然換気有効開口面積が、床面積の1/30以上確保	4.0	0.00	4.0	0.33			
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.50	3.0	0.33			
4.3 運用管理		1.0	0.00	-	-			
1 CO ₂ の監視		1.0	1.00	-	-			
2 喫煙の制御		-	-	-	-			
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-			3.7
1 機能性		3.8	0.40	4.8	1.00			4.6
1.1 機能性・使いやすさ		2.9	0.40	5.0	0.60			
1 広さ・収納性		3.0	0.00	-	-			
2 高度情報通信設備対応	フレッツ光ネクストマンション準 1Gを採用	2.0	0.00	5.0	1.00			
3 バリアフリー計画		3.0	0.99	-	-			
1.2 心理性・快適性		3.9	0.30	4.5	0.40			
1 広さ感・景観	LDK天井高さ2.9m以上を確保	3.0	0.00	5.0	0.50			
2 リフレッシュスペース		2.0	0.00	-	-			
3 内装計画	空間の広がりを重点的に内装計画をし、パースにて確認する	4.0	0.99	4.0	0.50			
1.3 維持管理		5.0	0.30	-	-			
1 維持管理に配慮した設計	内外装とも、防汚性の高い材料を使用	5.0	0.50	-	-			
2 維持管理用機能の確保	共用部は、偶数階に掃除用の水栓を設置	5.0	0.50	-	-			
3 衛生管理業務		-	-	-	-			
2 耐用性・信頼性		3.0	0.30	-	-			3.0
2.1 耐震・免震		3.0	0.50	-	-			
1 耐震性		3.0	0.80	-	-			
2 免震・制振性能		3.0	0.20	-	-			
2.2 部品・部材の耐用年数		3.0	0.30	-	-			
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20	-	-			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	0.20	-	-			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.10	-	-			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10	-	-			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-			
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-			

2.4 信頼性			3.0	0.20	-	-	
1	空調・換気設備		3.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備		2.0	0.20	-	-	
3	電気設備		3.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法	EVの耐震クラスAを採用する	3.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備	光ケーブル、メタルケーブルを採用	4.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性			3.3	0.30	3.4	1.00	3.3
3.1 空間のゆとり			2.2	0.00	3.8	0.50	
1	階高のゆとり	階高3m以上を確保する	3.0	0.60	5.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ		1.0	0.40	2.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.00	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性			3.4	0.99	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性	構造部材、仕上げ部材を痛めることなく修繕、更新が可能	5.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	2.6
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮		都市美協議の上、景観に配慮する	4.0	0.40	-	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30	-	-	2.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		3.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.4
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.5
1 建物外皮の熱負荷抑制			3.0	0.20	-	-	3.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		BEI 非住宅 1.00 住宅(専有部) 1.01	4.1	0.50	-	-	4.1
集合住宅以外の評価(3a.3b)		BEIが0.87	4.1	0.01	-	-	
集合住宅の評価(3c)		BEIが0.94	4.1	0.99	-	-	
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			3.0	0.01	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			3.0	0.99	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.3
1 水資源保護			3.0	0.20	-	-	3.0
1.1 節水			3.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.4	0.60	-	-	3.4
2.1 材料使用量の削減			3.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		高炉セメントの使用	5.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			1.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		躯体と仕上げ材が容易に分別可能	5.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.5	0.20	-	-	3.5
3.1 有害物質を含まない材料の使用		有害物質を含まない材料の使用	4.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.3	0.70	-	-	
1	消火剤	ハロン・フロンを使用しない	4.0	0.33	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.33	-	-	
3	冷媒		3.0	0.33	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.2
1 地球温暖化への配慮		ライフサイクルCO2の排出率が一般の建物と同じ	3.7	0.33	-	-	3.7
2 地域環境への配慮			2.9	0.33	-	-	2.9
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.6	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		-	-	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.33	-	-	
3	交通負荷抑制		2.0	0.33	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.33	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	0.33	-	-	
2	振動		3.0	0.33	-	-	
3	悪臭		3.0	0.33	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		3.0	-	-	-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	広告塔の設置なし	5.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	